

■(木曾)源義仲 武将。頼朝が上洛する前座をつとめ光芒わずか3年半であったが、武士像の一典型として伝説化した。

みなもとのよしなか

為朝鎮西乱行1154＝ 生。源為義の次男春宮帶刀長義賢の次男。母は遊女。

頼長内覧停止1155＝ 1歳： 父が甥の源義平と武蔵で戦って殺され、

保元の乱・・・1156＝ 2歳： 以後、乳母の夫信濃の中原兼遠のもとで養育された。通称“木曾冠者”。

平治の乱・・・1159＝ 5歳：

・・・・・・1163＝ 9歳：

清盛太政大臣1167＝13歳：

・・・・・・1172＝18歳：

源氏一斉蜂起1180＝26歳：*以仁王の令旨を受けて木曾に挙兵、小笠原頼直を討ってさらに上野に進出し、
平清盛没・・・1181＝27歳：_信濃に攻め入った越後の城助職を破って越後に進んだ。反平氏の動きの活発なのをみて北陸道から都へ上る計画であった。飢饉で戦局が停滞するなか、源頼朝に疎外された叔父源行家が義仲と合流。
後鳥羽天皇・1183＝29歳：*義仲は長子源義高を人質として鎌倉の頼朝のもとに送る。こうして東方との紛争を避けたうえ北陸道の経略に専念し、越中・加賀国境砺波山の倶利伽羅峠の戦で平氏軍を大破して近江に入った。伊賀から大和に出て北上する行家軍と呼応しながら、勢多から平氏西走後の京へ入った。直ちに後白河法皇より平氏追討の命を受け、無位無官から従五位下左馬頭越後守、ついで伊予守になった。しかし兵糧の不足と軍兵の無秩序から人心を失い、行家とも対立して、備中水島で平氏に敗れて帰京。その間に法皇は“寿永2年10月宣旨”を頼朝に与え接近を図り、孤立した義仲はクーデタを敢行、
・・・・・・1184＝30歳：*みずから従四位下征夷大將軍となって“旭將軍”と称したが、頼朝代官として上洛した源義経・範頼の軍に敗れ、北陸に落ちる途中近江栗津で敗死した。